

平成28年11月

袋井市議会定例会

一般質問通告内容

袋井市議会

インターネットで本会議の中継（録画）放送を行っています。

Yahoo!やGoogleなどの検索画面から、

袋井市議会 を検索して、ご覧ください。

傍聴者の皆様へ

携帯電話はマナーモードに切り替えをお願いします。

一般質問通告議員

1 2月7日（水）午前

質問順序	質問形式		ページ
1 番	一括	大 石 重 樹 議員	… 1
2 番	一問一答	高 橋 美 博 議員	… 3
3 番	一問一答	伊 藤 謙 一 議員	… 4

1 2月7日（水）午後

4 番	一括	岡 本 幹 男 議員	… 6
5 番	一括	高 木 清 隆 議員	… 8
6 番	一問一答	戸 塚 哲 夫 議員	… 10

質問順序	1	議席番号	3	質問者	大石 重樹
質問事項・要旨（具体的な質問事項） <<一括>>					
1	<p>市民後見人の育成</p> <p>認知症高齢者の増加に伴い、成年後見制度を必要として利用する高齢者は、今後さらに増えると予測される。こうした中、後見人の不足が確実視されているが、新たな担い手として期待されるのが「市民後見人」である。</p> <p>(1) 現在、成年後見制度を利用している件数とその実態はどうか。</p> <p>(2) 今後における市民後見人の必要性について、どのように考えているか。</p> <p>(3) 国・厚生労働省では、市民後見人を育成するため、これまで法改正や支援事業などを実施してきているが、現状どう対応し、今後どうしていくか。</p> <p>(4) 市民後見人を育成していくため、一般市民への啓発や周知について具体策を考えているか。</p> <p>(5) 県では、市民後見人の活動を推進するため、広域的に市町村及び関係機関が連携する協議会の設置を呼びかけているが、市の見解はどうか。</p>				
2	<p>心ゆたかな若者の育成</p> <p>市は合併以来、「心ゆたかな人づくり」を教育理念に掲げ、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの育成にあたる「徳育」の推進に取り組んでおり、新たな総合計画でも、「子どもがすこやかに育ちみんなが健康で幸せに暮らすまち・子育てするなら袋井市」をまちづくりの基本目標の一つとして施策を行っている。</p> <p>(1) 青少年健全育成推進体制の効果的な整備・充実は図られているか。地域活動を推進する「公民館青少年健全育成部」の活動状況はどうか。</p> <p>(2) 教育理念実現に向けての基本方向の一つとして、未来に輝く若者の育成を掲げているが、自己有用感を高め、生きる力やゆたかな心の育成策、また、教育支援事業は効果的に進められているか。</p> <p>(3) 学校また教職員が果たす役割はとりわけ大きく重いものであるが、教職員の勤務実態は激務であると言われている。市内の保幼・小・中の実態はどうか。</p> <p>(4) 中学校の部活動は、子どもの成長や能力を高めるものとして有意義であるが、教員にとっては、負担が増す要因にもなっている。生徒の部活動加入状況は現在どうか。また、部活動の顧問教員の現状と課題は何か。</p> <p>(5) 袋井市いじめ防止対策推進条例が施行され、各学校ではいじめ防止基本方針などが策定されたが、それぞれ各校特有の環境に基づく策定をしたのか、その内容に差異はあるのか。また、条例施行、基本方針の策定や対策組織の設置からおよそ5カ月経つが、それぞれ機能し効果は出ているか。</p> <p>(6) 文部科学省が発表した児童生徒の問題行動調査によると、2015年度の県内公立小学校のいじめ認知及び暴力行為はいずれも過去最多、中学校も共に増加している。2015年度の袋井市における児童生徒の問題行動はどれくらいあったか。</p> <p>(7) フリースクールなど、学校以外の場で学ぶ不登校の子どもへの支援を目的とした「教育機会確保法案」が、11月22日衆院本会議で可決され、今国会で成立する見通しであるが、賛否が分かれた法案であり見解を伺う。</p> <p>(8) 11月20日は「子どもの権利の日」、全国の市町村で「子どもの権利条例」の制定が進んでいるが、市はどのように考えているのか所見を伺う。</p>				

質問順序	1	議席番号	3	質問者	大石 重樹
質問事項・要旨（具体的な質問事項） <<一括>>					
3	<p>動物愛護</p> <p>人とペットは、有史以来生活を共にし、双方に恩恵をもたらしてきた。現代は幸せ感を求め、多様なペットを飼育している。2大ペットは犬と猫であるが、時代背景も関係し、今や空前の猫ブームである。かわいいとか癒しになるとだけでは割り切れない複雑な課題が生じている。</p> <p>市は、「袋井市飼い犬条例」を施行しているが、ペット飼育の多種化に伴い、ペット等に関するさまざまな課題に対処できるよう、条例を新たに定める必要性が出てきた。</p> <p>(1) 登録されている犬の飼育数は。また、飼い主のいない頭数は把握しているか。</p> <p>(2) 条例施行後、飼い犬また飼い主のいない犬の加害や措置命令はどれくらいあったか。</p> <p>(3) ペット及び飼い主のいない犬猫等に対する苦情・相談は各々どれくらいで、その対応はどのようにしているか。</p> <p>(4) 袋井市まちを美しくする条例第20条、犬及び猫の飼い主の責務と、第20条違反者に対する指導をしたことはあるか。この条例は機能しているのか。</p> <p>(5) 市における犬猫等の収容件数及び処分数は。また、ペット別ではどうか。不妊・去勢手術費等補助の推移はどうか。</p> <p>(6) 市内動物愛護団体やボランティアはどれくらいあるか。</p> <p>(7) 市民と動物が共生するまちを実現するため、「袋井市動物の愛護及び管理に関する条例」を制定すべきと思うがどうか。</p>				

質問順序	2	議席番号	1 2	質問者	高橋 美博
質問事項・要旨（具体的な質問事項） <<一問一答>>					
1	原子力災害広域避難計画について 袋井市原子力災害広域避難計画は、今年7月に素案が示されたが、静岡県や避難先となる三重県・福井県との協議、近隣市町との避難調整や協議、課題整理を行い、災害時応援協定の締結を行う必要があるとして計画策定は29年度末まで先延ばしとなっている。計画策定は必要ではあるが、実行性のある計画策定は無理なものと考ええる。広域避難計画の問題点を取り上げ、市の見解を伺う。 (1) 避難に要する時間はどれほどと想定しているか。 (2) 屋内退避が本当に可能と考えているのか。 (3) 判断基準の500 μSv/h、20 μSv/hは適切か。 (4) SPEEDIの活用を国、県に求めるべきではないか。 (5) 安定ヨウ素剤は事前配布とすべきではないか。 (6) 学校等から保護者への引き渡しは混乱に拍車をかけるのではないか。 (7) 災害弱者の避難について市の対応はどうか。 (8) 避難訓練の実施・市民への啓発をどのように進めるのか。				
2	部活動の在り方について 文部科学省から「学校現場における業務の適正化に向けて」という報告書が出された。そこでは教員が置かれている過酷な労働環境が問題にされ、「教員の部活動における負担を大胆に軽減する」方針も示されている。本市の中学校の部活動の実態と、教員の負担軽減の取り組みについて伺う。 (1) 部活動の位置付けをどのように捉えているか。 (2) 部活動の意義をどのように考えているか。 (3) 部活動の休養日はどのようになっているか。 (4) 教職員の部活動に携わる時間を把握しているか。 (5) 部活動の外部指導員の配置の現状とその任用条件はどうか。 (6) 部活動の今後の在り方、課題をどう捉えているか。				
3	就学援助制度について 文部科学省は新入学児童生徒学用品費等について「児童生徒が援助を必要とする時期に速やかに支給できるよう十分な配慮を求める」通知を出している。 (1) 本市の支給時期はどうなっているか。 (2) 新入学児童生徒学用品費等の支給を入学前とすることはできないか。				

質問順序	3	議席番号	4	質問者	伊藤 謙一
質問事項・要旨（具体的な質問事項） 《一問一答》					
1	<p>食育・学校給食に関する取り組みについて</p> <p>昭和29年の学校給食法の制定以降、給食は小・中学校において欠かすことのできない学級活動として位置付けられている。また、近年は食べ物を通して学ぶ食育の観点も加わり、また地産地消という産業振興的な役割も担い、その果たす役割は非常に大きい。一方で、本市では中部学校給食センターやおいしい給食課の新設を行い幾つかの変化が見られるため、以下を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 本市は給食（食育）を通じて、どのような教育を行っているか。 (2) おいしい給食課が新設されたが、その背景・目的は。 (3) 毎日の給食の写真や、一年を通したメニューの確認が市のホームページ上で行える。細かな情報公開であり、近隣他市に比べても本市の給食の特色に感じるが、その目的は。 (4) 生徒へのアレルギー対応、衛生管理の強化がされる中、栄養管理を維持した上での給食コストの削減により、献立に頭を悩ませる自治体も全国的には存在するが、本市はどうか。併せて、生徒一人に対する一食当たりの平均コストを伺う。 (5) 以前は地産地消コーディネーターを置き、取り組んでいた本市の地産地消の取り組みであるが、現在の地産地消に対する取り組みは。また、現在の本市の給食における地元食材の割合に関して伺う。 (6) 学校給食に関する地産地消における課題として安定的な仕入れが挙げられるが、現状はいかがか。 				
2	<p>ラグビーワールドカップ2019に向けて</p> <p>2019年に本市のエコパスタジアムにて開催が決定されたラグビーワールドカップ静岡県開催であるが、本市は民泊・英語やタグラグビー普及事業等の幾つかのソフト事業を展開している一方で、県はエコパの改修事業を先日発表した。地元における意識醸成や大会ボランティアの確保等のソフト事業の必要性は必須であるが、ここで改めて事業主体者である静岡県との協議及び提言が求められていると感じるため市の考え方を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 静岡県は、来年6月にエコパスタジアムにおける人工芝の整備を12月補正予算案に盛り込む方針であるが、改修時期に関して把握をしているか。また、エコパを使用した事業を行うスポーツ協会、学校関連等の団体へ情報を周知しているか。 (2) 上記の芝生ピッチとは別に、エコパスタジアムの老朽化した設備の改修事業を県が行うが、本市にとってハード事業における課題は周辺にないか。また、県とどのような課題が現状あるか協議が必要であると感じるがいかがか。 (3) 2019年のラグビーワールドカップ成功における一つの重要な要素として、ファンゾーンが挙げられる。12月3日にエコパにて行われた「ふじのくに応援団総決起集会」は、そのトライアル事業と感じた。観戦者や海外インバウンドを含めて多くの集客と経済効果が見込める県主催のファンゾーンを積極的に地元へ誘致するべきと感じるが、当局の意見を伺う。 				

質問順序	3	議席番号	4	質問者	伊藤 謙一
質問事項・要旨（具体的な質問事項） 《一問一答》					
	<p>(4) 2002年エコパで行われたサッカーワールドカップでは当時、最高のスタープレイヤーが揃ったイングランド対ブラジルの試合が、現在でも袋井市にとって大きなレガシーになっていると感じる。2019年の経済効果、また、次の10年への市民の誇りの創出として好カードの誘致を望むが、いかがか。</p> <p>(5) 今年8月、リオ五輪閉会式における2020年東京オリンピックへの引き継ぎパフォーマンスが話題を呼んだ。映像の中では、被災地支援に対する世界各国のありがとうという言葉で始まり、都会的な東京の映像に安倍内閣総理大臣もアニメキャラクターに扮して登場した。最新のARの映像技術等、現在の日本と東京のアピールとして世界から高評価を受けている。個人的には、レガシーやファンゾーンというキーワードとともに、静岡県と袋井市らしいコンセプトを今一度協議して、ラグビーワールドカップへの準備にあたることを提案するがいかがか。</p>				

質問順序	4	議席番号	2	質問者	岡本 幹男
質問事項・要旨（具体的な質問事項） 《一括》					
1	文化的施設の活用促進について 袋井市内には、袋井市月見の里学遊館と袋井市メロープラザの二つの文化的施設がある。現在はそれぞれ運営方法が異なっているが、市民から見てより魅力ある施設にしていくための活用方法について、次の3点を伺う。 (1) 袋井市月見の里学遊館は、現在、袋井市文化協会グループが指定管理者となっているが、イベントや講座の開催など運営面で市民に対し文化的側面から重要視している方針は何か。 (2) メロープラザは、現在、袋井市が管理しているが、企画運営面はどのようになされ、またその中での「メロープラザサポータークラブ」の位置付けはどのようなものか。当初方針では、将来的には市民を主体とした指定管理に移行することになっていたと聞く。市民の文化的事業への積極的参加は望ましいが、一方で過度な負担は運営事業停滞の原因となる。市民への文化的行事の提供の側面から今後の方針について伺う。 (3) 両施設は、現在、運営主体が異なっていること、担当部署が異なっていること、設置場所が山梨地区と浅羽地区に隔たっていることなどの事情はあるが、イベントや講座の開催など運用面で連携を取ったほうが市民にとってのメリットが大きい面もあるのではないか。				
2	眺望地点と彫刻のシティプロモーションへの活用について 現在、袋井市内には袋井市特有の景観を眺望できる「眺望地点（ビューポイント）」が14カ所あり、別に、彫刻・モニュメントが65カ所設置されている。しかし、市民や袋井市来訪者に対する認知度は決して高いものとは言えない。そこで、これらを袋井市のシティプロモーションに活用できないかにつき、次の3点を伺う。 (1) 「眺望地点（ビューポイント）」や彫刻を、ゆっくり味わえ、しかも、健康にも良いのは歩いて見て回ることである。しかし、現在13コースある袋井遊友（ゆうゆう）ウォーキングマップにはその表示がされていない。これから作成する改訂版には、その表示をするとともに、市民や来訪者にその魅力を宣伝すべきと考えるがどうか。 (2) 現在作成中のサイクルロードマップにも、「眺望地点（ビューポイント）」や彫刻の表示を入れたらどうか。また、これらを巡るレンタルサイクルを一回300円程度で用意してみてはどうか。 (3) 認知度を上げるために、スタンプラリーのカードを作ってみてはどうか。また、写真撮影やスケッチ・絵画による市民作品展を定期的を開催してみてはどうか。				
3	原子力災害広域避難計画の策定について 浜岡原子力発電所から30km圏に位置する袋井市では、静岡県浜岡地域原子力災害広域避難計画を受けて、原子力災害広域避難計画の策定に取り組んでいる。そこで、これに関連し、次の5点を伺う。 (1) 受け入れ県決定の先にある、受け入れ自治体の交渉はその後進展があるか。 (2) 避難ルート、避難方法の検討はどこまで進捗しているか。				

質問順序	4	議席番号	2	質問者	岡本 幹男
質問事項・要旨（具体的な質問事項） 《一括》					
	(3) 避難地域単位、緊急時モニタリングポイントは決定されたか。 (4) 安定ヨウ素剤配布訓練実施の予定はあるか。 (5) 市民への周知のための、パンフレット作成と住民説明会実施の予定はどうか。				

質問順序	5	議席番号	1 1	質問者	高木 清隆
------	---	------	-----	-----	-------

質問事項・要旨（具体的な質問事項） **《一括》**

1 防災対策について

最大震度7の地震が連続発生した熊本地震、近年の自然災害の状況を踏まえ、地域防災の在り方についての見直しと新たな取り組みが必要。

- (1) 市内自主防災隊の活動の活性化率を高めるために、現在の活動状況と課題について調査する必要があると考えるがどうか。
- (2) 水や保存食料、簡易トイレ等を対象とした家庭の防災用品購入への補助について取り組む考えはあるか。
- (3) 熊本地震において、車中泊する避難者が多かったことから、一定規模以上の駐車場を屋外避難所として、位置付ける考えはあるか。

2 公民館のコミュニティセンター化について

本市においては、公民館機能の充実とともに、地域課題への取り組みや地域づくり事業の推進を図るため、平成30年4月1日からのコミュニティセンター（以下、コミセン）への移行を目指しているが、社会教育事業がどのように引き継がれ、さらに高められていくのか、市が求めているコミセン像が今一つ見えてこないことから、コミセンに向けた取り組みについて問う。

- (1) コミセン化に向けた背景と趣旨、計画の位置付けについて、改めて伺う。
- (2) 市は公民館活動の現状と課題について、またコミュニティ活動の現状と課題について、どう捉えているのか。
- (3) 市が考える、地域コミュニティの将来像とは何か。どのような取り組みが考えられるのか。コミセン化を推進する上での、基本理念、基本方針について、また基本方針に基づいた施策の体系について伺う。
- (4) まちづくり協議会の設立まで、どのような流れで取り組んでいくのか。また、コミセンの設置条例、センター運営に関する条例、まちづくり協議会設置条例、協議会の会則等、コミセン・協議会の設置に向けた条例・会則等の制定に向けた取り組みと考え方、スケジュールについて、また公民館条例の取り扱いについても伺う。
- (5) 地域づくりを推進する上では、活動資金が必要となる。対象とされる事業は何か、対象とされない事業は何か、取り上げの可否に関する基準等のマニュアルの必要性と、交付の根拠となる条例の制定が必要と考えるがどうか。
- (6) 協議会設置について、1公民館、複数自治会連合会でも、1つのまちづくり協議会として取り組んでいく考えなのか。
- (7) コミセンにおけるセンター長・協議会会長・自治会連合会長の位置付けについて、自治会連合会、自治会との位置付け、各種団体との関係について伺う。
- (8) センターの職員体制と役割分担、センター長の権限について伺う。
- (9) まちづくり協議会の組織体制と構成員の考え方について伺う。
- (10) まちづくり協議会と市との関係について、また市のスタンスについて、及び協働の範囲や役割分担について伺う。
- (11) コミセン化により、センター職員の仕事の量や質が大きく変わることが予想される。現状の公民館における不安定な雇用形態を鑑み、見直しが必要と考えるがどうか。

質問順序	5	議席番号	1 1	質問者	高木 清隆
質問事項・要旨（具体的な質問事項） 《一括》					
	<p>(12) 高尾地域づくり協議会が立ち上がり、活動を展開しているが、現段階においての課題と問題点についてどう把握され、どう捉え検証されているのか。また、高尾地域づくり協議会の活動をどのようにコミセン化に向けた取り組みに反映させていく考えなのか。</p> <p>(13) コミセン運営について、指定管理者制度の導入の考えはあるのか。また、将来的には窓口業務にも取り組んでいく考えはあるのか。</p> <p>(14) 平成30年4月の時点において、13公民館が全てコミセンへの移行を目指すのか。</p>				

質問順序	6	議席番号	1	質問者	戸塚 哲夫
質問事項・要旨（具体的な質問事項） 《一問一答》					
1	ヘルプマークの活用について 外見から障害があると分からず、必要な手助けを得にくい人たちのために作られた「ヘルプマーク」が今、全国的に広がる兆しを見せている。 (1) 静岡県はこの「ヘルプマーク」の活用の検討をしているのか。 (2) 市はこの「ヘルプマーク」の活用をどのように考えているのか。				
2	災害時拠点給油所整備について 国は大規模災害で停電しても自家用車の給油ができるよう、自家発電機の購入費を補助し「住民拠点SS」として選定する取り組みを始めた。 (1) 市内給油所の自家発電機の設置状況は。 (2) 国の取り組みを受けて、石油協同組合袋井支部と調整されたのか。 (3) 常時満タン運動の取り組みを提案するが。				
3	マイナンバー制度の取り組み状況と今後の対応について マイナンバー制度が導入され1年が過ぎたが、制度の運用面で課題も残っている。市の取り組み状況と今度の対応について伺う。 (1) 受取人不在や宛先不明などで市に戻った通知カードはどのくらいあるのか。 (2) 戻った通知カードはいつまで保存するのか。 (3) マイナンバーカードの交付状況は。 (4) 独自で新しいサービスを導入する考えは。				